

第3学年 授業細目	社会(歴史)				
	単元	並び順	配当時間数	学習活動	評価規準など
社会・歴史	第一次世界大戦と民族独立の動き	1	2	◎クリスマスまでには帰れるさ ○第一次世界大戦は、植民地や勢力圏をめぐるヨーロッパの列強諸国間の対立や、民族問題を背景として起こったことを理解する。 ○第一次世界大戦が、史上初の世界的な規模の戦争で、新兵器も登場して総力戦となったことに気づくとともに、参戦国や国民生活にもたらした影響について考える。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】第一次世界大戦の背景や戦いの様子に関心を高め、第一次世界大戦がどのような戦争だったのかを意欲的に追究しようとしている。 【思・判・表】第一次世界大戦を引き起こした要因や戦いの様子について多面的・多角的に考察し、総力戦がもたらした影響について説明している。 【知・技】第一次世界大戦を引き起こした要因や戦いの様子について多面的・多角的に考察し、総力戦がもたらした影響について説明している。 【知・技】写真などの資料から、第一次世界大戦のころのヨーロッパの情勢や、第一次世界大戦の戦いの様子を読み取っている。
社会・歴史	第一次世界大戦と民族独立の動き	2	1	◎パンと平和、民主主義を求めて ○ロシア革命が起こった経緯や、ソビエト政府の社会主義政策についてとらえ、連合国側がソビエト政府に対する干渉戦争を始めた理由に気づく。 ○アメリカの参戦や、ソビエト政府とアメリカが示した講和原則が、第一次世界大戦と戦後の世界に与えた影響について考える。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】第一次世界大戦中のロシアとアメリカの動きに関心を高め、二国の動きが大戦に与えた影響について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】ロシア革命とアメリカの参戦が第一次世界大戦に与えた影響について、ロシア革命の内容と意義に着目しながら考察している。 【知・技】ロシア革命とアメリカの参戦が第一次世界大戦に与えた影響について、ロシア革命の内容と意義に着目しながら考察している。 【知・技】「第一次世界大戦の経過」の年表から、ロシア革命やアメリカの参戦と第一次世界大戦との関係を読み取っている。
社会・歴史	第一次世界大戦と民族独立の動き	3	2	◎成金の出現 ○日本は、勢力拡大を目的に第一次世界大戦に参戦し、中国に対して二十一条の要求を認めさせ、シベリアにも出兵したことを理解する。 ○大戦景気によって日本の経済が急成長し、事業を拡大した大企業が、財閥として経済界を支配するようになったことに気づく。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】第一次世界大戦中の日本の動きに関心を高め、日本が大戦を勢力拡大に利用していったことを意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】第一次世界大戦中の日本の動きや国内の様子を考察し、大戦によって国際社会における日本の勢力が拡大したことに気づき、説明している。 【知・技】第一次世界大戦中の日本の動きや国内の様子を考察し、大戦によって国際社会における日本の勢力が拡大したことに気づき、説明している。 【知・技】第一次世界大戦中の日本の軍事行動を地図で確認し、二十一条の要求の内容から、日本の軍事行動の目的を読み取っている。
社会・歴史	第一次世界大戦と民族独立の動き	4	2	◎不戦の誓い ○第一次世界大戦の終結と講和の内容についてとらえ、ヨーロッパでは多くの国が独立したにもかかわらず、アジアやアフリカで民族自決が認められなかった理由を考える。【関】【思・判・表】【技】【知・理】 ○大戦後には国際連盟が設立され、軍縮の動きや国際協調の気運が高まるとともに、民主主義も国際的に広がったことを理解する。	【主】第一次世界大戦後の世界の動きに関心を高め、世界平和実現のためになされた努力とその限界について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】ベルサイユ条約の内容と大戦後の世界の動きを多面的・多角的に考察し、新しい社会秩序構築のための世界各国の努力とその限界について説明している。 【知・技】ベルサイユ条約の内容と大戦後の世界の動きを多面的・多角的に考察し、新しい社会秩序構築のための世界各国の努力とその限界について説明している。 【知・技】ベルサイユ条約の内容や「第一次世界大戦後のヨーロッパ」の地図、「紙幣の束で遊ぶ子どもたち」の写真などの資料から、大戦後の世界の動きを読み取っている。
社会・歴史	第一次世界大戦と民族独立の動き	5	1	◎わきあがる独立の声 ○第一次世界大戦後、朝鮮・中国・インドで独立などを求める民族運動があいこいで起こったことや、日本は朝鮮の三一独立運動を武力でおさえつけたことを理解する。 ○アジアでの民族運動の高まりの背景には、民族自決の理念の広まりがあったことに気づく。【関】【思・判・表】【技】【知・理】	【主】第一次世界大戦後のアジアの動きに関心を高め、朝鮮・中国・インドの独立などを求める民族運動の様子と結果について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】アジアの民族運動を世界の動きと結びつけながら考察し、新しい社会秩序とその限界について説明している。 【知・技】アジアの民族運動を世界の動きと結びつけながら考察し、新しい社会秩序とその限界について説明している。 【知・技】様々な資料から、朝鮮・中国・インドの独立などを求める民族運動の様子を読み取っている。
社会・歴史	大正デモクラシー	6	2	◎憲政の本義を説いて ○第一次護憲運動や米騒動といった民衆運動の高まりや、民主主義の提唱などを背景に、大正時代に日本で初めて本格的な政党内閣が成立したことを理解する。 ○米騒動を引き起こした米価の高騰は、第一次世界大戦の影響やシベリア出兵と関わりがあることに気づく。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】日本の民主主義の拡大について関心を高め、政党政治の確立までの動きについて意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】第一次世界大戦後の世界の動きと日本の政治の動きを関連づけて考察し、民主主義が拡大していく過程を説明している。 【知・技】第一次世界大戦後の世界の動きと日本の政治の動きを関連づけて考察し、民主主義が拡大していく過程を説明している。 【知・技】日本の民主主義の拡大に関する政治的事象を適切に整理し、年表にまとめている。また、グラフなどから、米騒動と第一次世界大戦やシベリア出兵との関わりを読み取っている。
社会・歴史	大正デモクラシー	7	1	◎デモクラシーのうねり ○大戦後の経済不況を背景に、労働者や農民による争議、社会主義運動、差別からの解放を求める運動などの社会運動が高まったことを理解する。 ○政党内閣のもとで普通選挙法が成立し、協調外交が進められた一方で、治安維持法が制定されたことの意味を考える。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】民主主義の拡大にともなう社会運動の高まりについて関心を高め、日本の社会の動きを意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】第一次世界大戦後の日本の社会の動きを多面的・多角的に考察し、「大正デモクラシー」といわれる時代の特色について指摘している。 【知・技】第一次世界大戦後の日本の社会の動きを多面的・多角的に考察し、「大正デモクラシー」といわれる時代の特色について指摘している。 【知・技】「労働争議と小作争議の発生件数」のグラフや、「青鞥の宣言」・「水平社宣言」の資料から、労働運動、女性解放運動、部落差別解放運動の様子を読み取っている。
社会・歴史	大正デモクラシー	8	1	◎モボ・モガの登場 ○大正時代には、都市人口の急増により大都市が発達し、生活の洋風化が進むとともに、サラリーマンや職業に就く女性も増えたことを理解する。 ○国民の教育水準が上がるなかで、新聞や雑誌、ラジオ放送などのメディアが発達し、文化の大衆化が進んだことに気づく。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】大正時代の日本の文化に関心を高め、人々の生活の変化について具体的に調べようとしている。 【思・判・表】大正時代の人々の生活や文化と、政治・社会の動きを関連づけて考察している。 【知・技】大正時代の人々の生活や文化と、政治・社会の動きを関連づけて考察している。 【知・技】様々な資料から、大正時代の人々の生活の様子や変化、文化の内容を読み取っている。
社会・歴史	恐慌から戦争へ	9	1	◎独裁者の出現 ○世界恐慌が起こった経緯をとらえ、その対策としてアメリカが行ったニューディール政策や、イギリス・フランスが行ったブロック経済の特徴について理解する。 ○ドイツやイタリアでファシズムが台頭した経緯をとらえ、多くの国民が独裁者を支持した理由について考える。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】世界恐慌が世界の経済・政治に与えた影響に関心を高め、各国の対策とそれにとまなう国際社会の変化について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】世界恐慌が世界の経済・政治に与えた影響を考察し、ファシズムが台頭した経緯と理由について説明している。 【知・技】世界恐慌が世界の経済・政治に与えた影響を考察し、ファシズムが台頭した経緯と理由について説明している。 【知・技】「ヒトラーの言葉・ムッソリーニの言葉」の資料や、「集会で握手にこたえるヒトラー」の写真から、ファシズムの考え方やそれを支持した国民の様子を読み取っている。
社会・歴史	恐慌から戦争へ	10	2	◎日本を襲う不景気 ○日本では、関東大震災による打撃や世界恐慌の影響を受けて経済が混乱し、生活が逼迫した国民の間には、政党政治に対する不満と不信が広まったことに気づく。 ○政党内閣の進める協調外交がしだいに行き詰まったことを、国民政府軍による中国統一の動きと関わせて理解する。【主】【思・判・表】【知・技】	【関】世界恐慌が日本の経済・政治に与えた影響に関心を高め、それにとまなう日本の社会の変化について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】世界恐慌が日本の経済・政治に与えた影響を考察し、日本の社会の混迷を、国民生活の苦しさや政府に対する国民の不満の高まりと関連づけながら説明している。 【技】世界恐慌が日本の経済・政治に与えた影響を考察し、日本の社会の混迷を、国民生活の苦しさや政府に対する国民の不満の高まりと関連づけながら説明している。 【知・理】写真とグラフから、世界恐慌下で混迷する日本の経済や社会の様子を読み取っている。
社会・歴史	恐慌から戦争へ	11	1	◎満州は日本の生命線 ○満州事変が起こった経緯をとらえ、日本がつくらせた満州国は、事実上の植民地であったことに気づく。 ○満州事変を支持する国内の世論を背景に、日本は国際連盟を脱退し、軍縮も破棄して国際社会から孤立していったことを理解する。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】満州事変が起こった経緯に関心を高め、国際社会から孤立していく日本の動きについて意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】満州事変が日本や国際社会に与えた影響を考察し、国際社会から孤立していく日本の動きを具体的に説明している。 【知・技】満州事変が日本や国際社会に与えた影響を考察し、国際社会から孤立していく日本の動きを具体的に説明している。 【知・技】「溥儀の『満州国』執政就任式」・「満州での開拓の様子」の写真や、「『満州国』の建国ポスター」の資料から、日本が満州事変を起こした目的や日本の主張を読み取っている。
社会・歴史	恐慌から戦争へ	12	2	◎「話せばわかる」 ○五・一五事件と二・二六事件をきっかけに、政党政治に代わる軍国主義の動きが高まり、軍部が政治への発言力を強めていったことを理解する。 ○満州と華北をめぐる対立から、日本は中国と戦争を始めたことや、抗日民族統一戦線の結成など中国の抵抗により、戦争が長期化していったことを理解する。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】軍国主義の高まりについて関心を高め、軍部の台頭とそれにとまなう政党政治の終わり、日中戦争への歩みについて意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】五・一五事件や二・二六事件が起こった背景を考察し、政党政治に代わって軍国主義の動きが強まっていった理由について説明している。 【知・技】五・一五事件や二・二六事件が起こった背景を考察し、政党政治に代わって軍国主義の動きが強まっていった理由について説明している。 【知・技】日中戦争における戦線の拡大と長期化の様子を、地図から読み取っている。
社会・歴史	恐慌から戦争へ	13	1	◎ぜいたくは敵だ ○国家総動員法の制定や、大政翼賛会・隣組などの組織が、戦争遂行のために果たした役割について考える。 ○政府は、メディアや教育、生活物資などを通じて国民生活を厳しく統制したことや、植民地の人々に対しても、日本人に同化させる皇民化政策を強めたことを理解する。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】戦時下の国民生活について関心を高め、物資の不足や厳しい統制など、国民の苦しい生活について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】日中戦争の長期化と厳しい国民生活を関連づけて考察し、戦争の悲惨さについての思いを深めている。 【知・技】日中戦争の長期化と厳しい国民生活を関連づけて考察し、戦争の悲惨さについての思いを深めている。 【知・技】戦時下の日本の様々な写真から、当時の厳しく、苦しい生活を読み取っている。

社会・歴史	第二次世界大戦と日本の敗戦	14	1	◎枢軸国と連合国の戦い ○第二次世界大戦の開戦の経緯をとらえ、ドイツがイタリア・日本と結びつきを強めて枢軸を形成したことや、占領地でユダヤ人虐殺などの過酷な支配をしたことを理解する。 ○民主主義を守ろうとする国々が、大西洋憲章のもとに連合国としてまとまったことに気づき、大西洋憲章の意義について考える。【主】 【思・判・表】 【知・技】	【主】0年代後半のドイツとイタリアの動きに関心を高め、第二次世界大戦の開戦に至るまでの経緯について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】ドイツのナチ党によるユダヤ人虐殺について考察し、戦争がもたらす過ちや悲劇について考えを深めている。 【知・技】ドイツのナチ党によるユダヤ人虐殺について考察し、戦争がもたらす過ちや悲劇について考えを深めている。 【知・技】枢軸国と連合国の対立と戦争拡大の様子を、地図から読み取っている。
社会・歴史	第二次世界大戦と日本の敗戦	15	2	◎米・英への宣戦布告 ○日中戦争が長期化するなか、日本は軍需物資を求めて東南アジアに侵攻し、アメリカとの対立から太平洋戦争を始めたことを理解する。 ○「大東亜共栄圏」を提唱した日本の占領政策についてとらえ、植民地からの解放を期待したアジアの人々がどのように受け止めたのかを考える。【主】 【思・判・表】 【知・技】	【主】日本が日中戦争遂行のためにとった動きについて関心を高め、太平洋戦争開戦に至るまでの経緯について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】当時の日本の動きを世界情勢と関連づけながら考察し、日本が日中戦争と並行して太平洋戦争を行う決断をした理由について説明している。 【知・技】当時の日本の動きを世界情勢と関連づけながら考察し、日本が日中戦争と並行して太平洋戦争を行う決断をした理由について説明している。 【知・技】「日本の資源の輸入先の割合」のグラフから、アメリカとの関係悪化が日本の戦争遂行に大きな影響を与えたことを読み取っている。また、「太平洋戦争」の地図から戦線拡大を確認し、この戦争の無謀さを読み取っている。
社会・歴史	第二次世界大戦と日本の敗戦	16	2	◎欲しがりません勝つまでは ○戦争が総力戦となるなか、学生を含む多くの国民や植民地・占領地の人々が、兵力や労働力として動員・連行されたことを理解する。 ○戦況が悪化するなか、国民生活は窮乏し、日本への空襲が繰り返されるようになって、国内でも大きな犠牲が生じたことを理解する。 【関】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	【関】戦時下の国民生活の様子に関心を高め、日本の被害の拡大とそれにとまなう国民生活の悪化について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】戦況の悪化と拡大する被害、国民生活の窮乏を関連づけて考察し、戦争の悲惨さについての思いを深めている。 【技】戦況の悪化と拡大する被害、国民生活の窮乏を関連づけて考察し、戦争の悲惨さについての思いを深めている。 【知・理】戦時下の日本の様々な写真から、当時の厳しく、苦しい生活を読み取っている。
社会・歴史	第二次世界大戦と日本の敗戦	17	2	◎軍国主義の敗北 ○イタリア・ドイツの降伏に続いて、日本も沖縄戦や広島・長崎への原爆投下、ソ連の参戦などを経て降伏し、第二次世界大戦が終結したことを理解する。 ○終戦後も残留孤児やシベリア抑留などの被害が続いたことに気づき、戦争は国内外で多大な惨禍をもたらしたことを理解する。	【主】沖縄戦や原爆投下などの戦争がもたらした惨禍に関心を高め、第二次世界大戦が大きな被害と犠牲をともなう終結していったことを意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】第二次世界大戦がもたらした惨禍を考察し、平和の大切さや世界平和を実現するために必要な努力について考えを深めている。 【知・技】第二次世界大戦がもたらした惨禍を考察し、平和の大切さや世界平和を実現するために必要な努力について考えを深めている。 【知・技】沖縄戦や原爆投下の写真から、戦争がもたらした惨禍について読み取っている。
社会・歴史	第二次世界大戦と日本の敗戦	18	1	◎★学習のまとめと表現 ○「大戦期」の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○「大戦期」から現代へ時代がどのように変化していったのか、子どもたちの生活の違いに着目して関心をもつ。【主】 【思・判・表】 【知・技】	【主】戦争の終結で、子どもたちの生活や思いがどのように変わったのか意欲的に予想しようとし、「大戦期」から現代への時代の変化に関心を高めている。 【思・判・表】「大戦期」のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。 【知・技】「大戦期」のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。 【知・技】「大戦期」の舞台となった場所を地図にまとめている。
社会・歴史	日本の民主化と冷戦	19	1	◎敗戦からの再出発 ○連合国軍による日本占領や民主化政策についてとらえ、その方針がポツダム宣言に基づいていることに気づく。 ○敗戦後の苦しい国民生活のなかで、人々の間には統制からの解放感が広がり、娯楽や文化もしだいに復興していったことを理解する。 【関】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	【関】敗戦後の日本の状況に関心を高め、暮らしの変化を意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】連合国軍による日本占領や民主化政策について考察し、その方針がポツダム宣言に基づいていることを指摘している。 【技】連合国軍による日本占領や民主化政策について考察し、その方針がポツダム宣言に基づいていることを指摘している。 【知・理】敗戦後の苦しい国民生活の様子とともに、他方では人々の間に統制からの解放感が広がったことを、写真や本文から読み取っている。
社会・歴史	日本の民主化と冷戦	20	2	◎平和国家をみざして ○日本国憲法の制定過程や三原則についてとらえ、憲法制定により民主主義国家としての根幹が定まったことに気づく。 ○民法の改正、教育基本法の制定、財閥解体、農地改革などの改革のねらいや影響について理解し、戦前の制度と比べて、その特色を考える。【主】 【思・判・表】 【知・技】	【主】日本国憲法の制定や教育・経済の民主化が、社会にどのような変化をもたらしたかに関心を高め、意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】日本国憲法の制定により、民主主義国家としての根幹が定まったことに気づき、説明している。また、教育や経済の改革について、戦前の制度と比較して考察し、その特色を説明している。 【知・技】日本国憲法の制定により、民主主義国家としての根幹が定まったことに気づき、説明している。また、教育や経済の改革について、戦前の制度と比較して考察し、その特色を説明している。 【知・技】「あたらしい憲法のはなし」の挿絵や改革に関する写真を活用し、戦後の改革が何をみざしていたかを読み取っている。
社会・歴史	日本の民主化と冷戦	21	1	◎冷たい戦争の始まり ○大戦の反省から新たに国際連合が発足した一方で、米ソの対立から東西陣営の冷戦が生じたことを理解し、ドイツや朝鮮が二つに分断されたことに気づく。 ○中国で中華人民共和国が成立し、アジア・アフリカでは植民地の独立があい次ぐなか、中東ではイスラエルとアラブ諸国の間で戦争が続いたことを理解する。【主】 【思・判・表】 【知・技】	【主】第二次世界大戦後の世界の国々の動きに関心を高め、冷戦の背景や原因について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】ドイツや朝鮮が二つに分断されたことや、アジア・アフリカでの第三世界の形成について、東西の冷戦と関連づけて説明している。 【知・技】ドイツや朝鮮が二つに分断されたことや、アジア・アフリカでの第三世界の形成について、東西の冷戦と関連づけて説明している。 【知・技】ベルリンの壁について、写真や地図を活用して調べ、その意味を読み取っている。また、アフリカ諸国の独立について、集中した時代を地図から読み取っている。
社会・歴史	日本の民主化と冷戦	22	1	◎度線の緊張 ○冷戦の緊張が高まるなか、日本に対するGHQの占領政策が大きく転換したことを理解し、その理由について考える。 ○朝鮮戦争の経緯や日本との関わりをとらえ、日本に特需景気をもたらしたことに気づくとともに、GHQが警察予備隊を新設させた目的について考える。【関】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	【主】現在も続く韓国と北朝鮮の緊張関係から、冷戦がアジアに与えた影響に関心を高め、日本・アメリカ・中国・ソ連のそれぞれの立場や関係について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】日本に対するGHQの占領政策が、大きく転換した理由について考察している。 【知・技】日本に対するGHQの占領政策が、大きく転換した理由について考察している。 【知・技】朝鮮戦争をめぐる日本とアメリカの関係について、地図や新聞資料などを活用して読み取っている。
社会・歴史	日本の民主化と冷戦	23	1	◎独立から復興へ ○日本は、平和条約を結んで独立を回復し、国連に加盟して国際社会に復帰したことを理解するとともに、安保条約によりアメリカの強い影響下におかれたことに気づく。 ○冷戦を背景に、国内では原水爆禁止運動が盛り上がったことや、経済が急速に復興するなか、自由民主党が政権を担当する政治体制が築かれたことを理解する。【主】 【思・判・表】 【知・技】	【関】冷戦のなか、日本がどのようにして独立を回復したか関心を高め、意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】日本が独立を回復し、国際社会に復帰した一方で、ソ連との北方領土問題や中国との国交、アメリカによる沖縄などの統治など、様々な課題が残されたことを指摘している。 【技】日本が独立を回復し、国際社会に復帰した一方で、ソ連との北方領土問題や中国との国交、アメリカによる沖縄などの統治など、様々な課題が残されたことを指摘している。 【知・理】日本との講和をめぐり、連合国の間には様々な主張の違いがあったことを、資料から読み取っている。
社会・歴史	世界の多極化と日本	24	1	◎自主・独立・平和を求めて ○ベトナム戦争の経緯や日本との関わりについてとらえ、ベトナム反戦運動の世界的な高まりに気づく。 ○経済の統合や民主化など、東・西ヨーロッパで米ソに対抗する動きが起こったことや、中東の紛争を背景に、アラブ諸国の石油戦略が先進国に影響を与えたことを理解する。【主】 【思・判・表】 【知・技】	【主】ベトナム戦争や中東の紛争と、日本との関わりに関心を高め、意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】ベトナム戦争の経緯について考察し、反戦運動が世界的に高まった理由を推測している。 【知・技】ベトナム戦争の経緯について考察し、反戦運動が世界的に高まった理由を推測している。 【知・技】ベトナムやチェコ、パレスチナでの報道写真から、自主・独立・平和を求める人々の願いを読み取っている。
社会・歴史	世界の多極化と日本	25	1	◎国際関係の変化 ○安保条約改定の内容や経過をとらえ、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由について考える。 ○日本と韓国・中国との国交正常化や、沖縄の本土復帰の経緯についてとらえるとともに、今日まで残された課題があることに気づく。 【関】 【思・判・表】 【技】 【知・理】	【主】安保条約改定に対する国民の大規模な反対運動に関心を高め、意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】安保条約改定の内容や経過について考察し、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由を説明している。 【知・技】安保条約改定の内容や経過について考察し、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由を説明している。 【知・技】沖縄に関する写真を活用し、本土復帰の前と後で何が変わり、何が変わらなかったのかを読み取っている。
社会・歴史	世界の多極化と日本	26	1	◎高度経済成長の光とかげ ○0年代の高度経済成長により、国民生活は豊かになった一方で、過疎・過密化などの社会問題や深刻な公害問題が生じたことを理解し、その原因について考える。 ○石油危機の打撃を受けた日本が、産業構造を転換させたことや、その後の輸出超過により各国と貿易摩擦が起こったことを理解する。【主】 【思・判・表】 【知・技】	【主】高度経済成長がもたらした国民生活の変化や、石油危機の影響に関心を高め、意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】高度経済成長期に、過疎・過密化などの社会問題や、深刻な公害問題が生じた原因について考察している。 【知・技】高度経済成長期に、過疎・過密化などの社会問題や、深刻な公害問題が生じた原因について考察している。 【知・技】高度経済成長がもたらした光の面とかげの面について、資料や本文から読み取っている。

社会・歴史	冷戦の終結とこれからの日本	27	1	◎変動する国際社会 ○東西ドイツの統一やソ連の崩壊により冷戦が終結したことを理解するとともに、地域紛争やテロ事件が今もなお続くなかで、日本が果たすべき国際的役割について考える。 ○政治統合を目指すヨーロッパ連合の動きについてとらえ、こうした動きは世界にも広まりつつあることに気づく。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】冷戦終結後のアメリカやヨーロッパでの動き、世界各地であい次ぐ地域紛争やテロ事件について関心を高め、日本との関係に着目しながら意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】EUが結成された背景や、地域紛争・テロ事件が続くなかで日本が果たすべき国際的役割について、具体的に考察している。 【知・技】EUが結成された背景や、地域紛争・テロ事件が続くなかで日本が果たすべき国際的役割について、具体的に考察している。 【知・技】写真や地図をもとに、冷戦終結後の世界の変化を読み取っている。
社会・歴史	冷戦の終結とこれからの日本	28	1	◎私たちの生きる時代へ ○バブル経済の経緯と、その崩壊で日本経済が長い不況に入ったことを理解するとともに、その後の政権交代の推移をとらえ、新たな政治のあり方が模索されていることに気づく。 ○阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件、東日本大震災などが、社会に及ぼした影響について考える。【主】【思・判・表】【知・技】	【関】冷戦終結後から近年にかけての国内の動きに関心を高め、その背景について意欲的に調べようとしている。 【思・判・表】阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件、東日本大震災などが、社会にどのような影響を及ぼしたか考察している。 【技】阪神・淡路大震災や地下鉄サリン事件、東日本大震災などが、社会にどのような影響を及ぼしたか考察している。 【知・理】自分が生まれ育ってきた年間の社会のできごとを新聞などで調べ、時代背景と関連づけて発表している。
社会・歴史	冷戦の終結とこれからの日本	29	1	◎未来をひらくために ○グローバル化・情報化・少子高齢化の動きをとらえ、自分たちの生活に様々な影響を及ぼしていることに気づき、公民的分野の学習への課題意識をもつ。 ○環境や人権を守り、豊かで平和な国や世界を築いていくことの重要性を理解するとともに、自分たち一人ひとりが果たすべき役割について考える。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】グローバル化・情報化・少子高齢化の動きが、自分たちの生活に及ぼしている影響について意欲的に調べ、公民的分野の学習に関心を高めている。 【思・判・表】環境・人権・平和をめぐる様々な課題に対し、自分たち一人ひとりが果たすべき役割について考察している。 【知・技】環境・人権・平和をめぐる様々な課題に対し、自分たち一人ひとりが果たすべき役割について考察している。 【知・技】グローバル化・情報化・少子高齢化の動きや、環境・人権・平和をめぐる課題について、昨今の新聞記事を収集・活用して発表している。
社会・歴史	冷戦の終結とこれからの日本	30	1	○現代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現するとともに、「大戦期」からの時代の変化をとらえ、時代の特色とこれからの時代について考える。【主】【思・判・表】【知・技】	【主】「大戦期」から現代へどのように時代が変わったのか話し合い、これから築いていくべき時代について意欲的にまとめようとしている。 【思・判・表】現代のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。 【知・技】現代のできごとや動き、時代の特色について考察し、自分なりの言葉で説明している。 【知・技】現代の舞台となった場所を地図にまとめている。
社会・公民	①つながる私たちと世界	1	1	○グローバル化という視点から、身近な暮らしと世界とのつながりについて、具体的な事例を通して理解する。 ○グローバル化によって新たに生まれてきた課題や、今後の暮らしへの影響に気づく。	インターネットの普及やグローバル化がもたらす長所・短所を、様々な統計資料をもとに調べまとめ、今後、それらが私たちの生活にどのような変化をもたすか理解している。 インターネットの普及やグローバル化がもたらす長所・短所を明らかにしながら、国際社会の様々な問題や、情報活用の仕方、異なる価値観をもつ他者との共存の在り方について考察し、表現している。
社会・公民	②急速に進展する情報社会	2	1	○急速に進化する情報社会の特徴を理解し、情報との接し方や活用の仕方を考える。 ○情報社会において、自分たちが情報を伝え合うことや世界とつながることの意味に気づく。	情報化の長所・短所や、AI、IoT、Society5.0、SNS等の語句を理解し、情報の発信者として情報を読み取る力や情報リテラシーを身に付けている。 情報化やAIの進展が、これからの社会や私たちの暮らしにどのような影響を与えるか、多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	③誰もが活躍できる社会へ	3	1	○社会の変化を背景とする、少子化や高齢化、核家族化といった家族や家庭のあり方の変化について理解する。 ○少子高齢社会の課題に気づき、国や地域の対策と、自分たちができることを考える。	少子高齢化、核家族化の現状について調べ、その背景や今後の社会に与える影響について理解している。生産年齢人口の割合や高齢化率、一人暮らしの高齢者数の推移に関わる資料等をもとに、今後どのような社会になっていくか、多面的・多角的に考察し説明している。
社会・公民	①豊かな生活を実現するために	4	1	○科学技術の発展がもたらした社会の変化や、私たちの身近な暮らしへの影響について理解する。 ○日本人の宗教観と宗教のもつ意味や、芸術の果たす役割について考える。	科学技術の発展や宗教、芸術などの文化が、社会の変化や私たちの暮らしに与えた影響について様々な資料からまとめ、その意義や価値を理解している。技術革新の進展による社会の変容を推測し、身近な暮らしの中で宗教や芸術が果たす役割を、多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	②伝統文化の継承と文化の創造	5	1	○日常生活の中から日本の伝統文化を見だし、身近な暮らしの中でどのような役割を果たしているかを理解する。 ○異文化交流を積極的に行うことの意義について考える。	グローバル化が進む社会の中で、日本の伝統文化が果たす役割を理解している。日本の伝統文化が私たちの生活に与えている影響や、世界に発信したい日本の文化・サブカルチャーについて、多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	□つなげたい、日本の伝統や文化(1)	6	1	○過去から受け継がれ、身近な場所に息づいている伝統や文化について理解し、未来へ継承していくことの意味について考える。	クールジャパンとして世界に広がりを見せている文化の良さや特徴について調べまとめ、理解している。後世に伝えたい日本の伝統文化について、多面的・多角的に考察し、説明している。
社会・公民	①さまざまな人と生きる	7	1	○人間は、誰もが社会集団の中で生きる社会的存在であることに気づき、人々の間のさまざまな対立の存在と、それを解決し合意を目指していくことの意義に気づく。 ○ルールやきまりに込められた意味を理解し、契約とそこにある責任と義務などの重要性について考える。	対立から合意を形成していくための方策として、ルールやきまりが成り立っていることや、契約を結ぶことの責任と義務、話し合いの様々な方法の長所と短所を理解している。話し合いを経て合意を形成する過程の在り方を、「スマートフォンの使用をめぐるルールづくり」を例に考察し、表現している。
社会・公民	②誰もが大切にできるルールとは	8	1	○話し合いを通じて具体的なルールやしきみをつくっていく際、効率と公正という考え方が必要になることを理解する。 ○効率と公正の観点で他者との合意を形成する努力を積み重ねながら、対立から合意を得ていくことができることに気づく。	社会や身近な暮らしの中で起こる対立の解決を目指し、効率と公正の観点から合意を図ることの意義について理解している。「合唱コンクールの練習」を例に、効率と公正の観点から最適解を導き出すことの意義を、多面的・多角的に考察し、説明している。
社会・公民	③地域のルールを考えよう	9	1	○「ごみ収集所の新たな設置」を例に、人々の対立を調整し合意にいたるルール作りのあり方について考える。 ○実際に話し合いを行うことを通して、対立する意見を調整しながら合意を得ることの意義を理解する。	ルールをつくる体験、合意を図る体験を通して、対立と合意、効率と公正の概念を理解している。「新たなごみ集積所の設置場所を考えよう」を例に、問題の解決の仕方やルールの在り方について、効率と公正の観点から多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	④よりよい社会を築くために	10	1	○「ごみ収集所の新たな設置」を例に、話し合いによって自分たち自身がルールをつくり、守っていくことの大切さに気づく。 ○対立と合意をさらに繰り返ししながら、ルールを見直し、よりよいルールをつくっていくことができることに気づく。	社会生活を営む上でのルールが果たす役割や、状況の変化や新しい問題が発生した際には、対立と合意を繰り返ししながら、よりよいルールにつくりかえることができることを理解している。「ごみ収集所の設置場所のルールを評価しよう」をもとに、各グループから出された提案の評価を、効率と公正の観点から多面的・多角的に考察し、説明している。
社会・公民	◇学習のはじめに 日本国憲法の最も大切な考え方はなんだろう	11	1	○憲法を学ぶにあたり、その根底にある個人の尊重という考え方の大切さに気づく。 ○憲法とは何か、なぜ憲法を学ぶ必要があるのかについて興味・関心をもつ。	①知識・技能 日本国憲法が、個人の尊重という価値観を基礎に成り立っていることを理解している。②社会的な思考・判断・表現 個人を尊重するという考えについて、日常の具体的なできごとと関連付けて考察し、表現している。③主体的に学習に取り組む態度 個人の尊重と法の支配の重要性に着目し、自分の生活と関連付けて憲法を学ぶ意味を自らに問い、理解しようとしている
社会・公民	①人権の考え方と歴史	12	1	○人権思想の歴史や特色を整理し、人権の保障が必要となった背景について考えを深める。 ○大日本帝国憲法制定の背景や、内容の特徴について理解する。	資料を基に、世界の人権思想の歩みや大日本帝国憲法が誕生した背景を理解し、人権思想の発展過程や大日本帝国憲法の特徴について調べまとめている。人権思想の獲得が、歴史の中でどのような役割を果たしたのかを考察し、表現している。

社会・公民	②憲法はこうして生まれた ↓	13	1	○立憲主義や法の支配などの考え方を理解し、憲法がもつ役割や意義に気づく。 ○日本国憲法の成立過程とその意義について、大日本帝国憲法との比較を通して理解を深め、憲法の三つの基本原理を理解する。	日本国憲法で新たに保障されるようになった権利について、大日本帝国 憲法と比較しながら調べまとめている。日本国憲法の成立過程について、歴 史的事象と関連づけながら、大日本 帝国憲法との違いから多面的・多角 的に考察し、表現している。
社会・公民	③国民の意思による政治 ↓	14	1	○将来の日本を担う主権者の一人として、国民主権の意義やその実現について考える。 ○象徴天皇制の意義や特徴について理解し、国民主権の原理について理解を深める。	国民主権、象徴天皇制、憲法改正の 手続きの具体的な内容について、掲 載された各資料を基に調べまとめ、理解している。国民主権の意義について、象徴天皇 制や憲法改正の手続きのしくみなど を基に考察し、説明している
社会・公民	①基本的人権を尊重すること ↓	15	1	○生命の大切さとともに、すべての人権の根源には個人の尊重という考え方があることを理解する。 ○誰もがかけがえのない存在であるためには、法の下での平等という考え方が大切であることに気づく。	生命や人権を尊重しようという考え 方の根源に個人の尊重の理念があることを理解し、憲法で保障された内 容について調べまとめている。個人を尊重するために必要な権利や その理由について、身近な生活を含 むさまざまな事例の中から考え、説明 している。
社会・公民	②差別をしない、させない ↓	16	1	○具体的な事例を通じて差別の実態に気づき、自らの生活と結びつけて差別の問題について考える。 ○いまだ存在するさまざまな差別を許すことなく、解消に向けて主体的に考え、取り組んでいこうとする態度を身につける。	部落差別やアイヌ民族、定住外国人 差別の歴史的背景や、権利保障のた めの法律制定の経緯を調べまとめ、差別の解消に向けた取り組みの重要 性について理解している。部落差別やアイヌ民族、定住外国人 への差別に関する具体例を通して、その解消に向けた取り組みを自分事 として受け止め、考察し、表現している。
社会・公民	③ともに生きる社会の実現へ ↓	17	1	○個人として尊重されることの意味を理解し、さまざまな違いをもった人々が活躍できる社会の実現の大切さを理解する。 ○女性や障がいのある人などへの差別や偏見が人権侵害であることを理解し、自らの意識や行動を変化させる態度を養う。	女性差別の背景にある考え方や、障 がい者の権利が保障されるまでの経 緯について調べまとめ、違いがある 人々が活躍できる社会の重要性につ いて理解している。女性や障がいのある人々への差別や 偏見に関する具体例から、共生社会 の実現するための取り組みについ て 多面的・多角的に考察している。
社会・公民	□ともに生きる社会を目指す人たち (1)	18	1	○識字運動やハンセン病問題、LGBTへの取り組みに関する具体的な事例を読み解くことを通じて、人権保障の大切さについてさらに深く考える。	識字運動やハンセン病問題の歴史 的な背景や、LGBTの取り組みにつ いて理解している。識字運動やハンセン病問題、LGBT の取り組みを通して、個人を尊重する ことの意義について考察し、表現している。
社会・公民	④自由ってなんだろう ↓	19	1	○自由権の考え方や意義について、身近な生活との関わりから理解する。 ○日本国憲法の条文から、精神活動の自由についての内容を具体的に読み取り、理解を深める。	過去に人々の自由が侵された事例を 通して、自由権の意義やその種類を 理解し、憲法の条文などから精神活 動の自由の具体的な内容について 調べまとめている。具体的な事例を通して、精神活動の 自由について様々な立場や視点から 考察し、説明している。
社会・公民	⑤自由な社会のために ↓	20	1	○憲法で保障された身体の自由について、憲法の条文や具体例を通して理解を深める。 ○憲法で保障された経済活動の自由について、憲法の条文や具体例を通して、その意義や目的を考える。	自由権における生命・身体の自由と 経済活動の自由の、具体的な内容 について調べまとめている。具体的な事例を通して、生命・身体 の自由や経済活動の自由について、様々な立場や視点から考察し、説明 している。
社会・公民	⑥人間らしい生活とは ↓	21	1	○社会権の意義について、自由権や平等権の保障との関連で考えるとともに、社会権の考え方が生まれた背景を理解する。 ○社会権の最も基本となる生存権の保障と、それに基づく制度について理解を深め、その意義を考える。	少子高齢社会化や経済格差の広が りなど、社会権が求められるように なった背景について調べまとめ、社会 権の内容と意義について理解している。生存権の意義や、「人間らしい生活と は何か」、「そのために必要なものは 何か」といった課題について、さまざ まな視点から考察し、表現している。
社会・公民	⑦人間らしい生活の保障へ ↓	22	1	○社会権において、教育を受ける権利が保障されていることについて理解し、その意義を考える。 ○労働者を守る権利が保障されるようになった歴史的背景や、法の整備を含めた政府の取り組みについて理解する。	「教育を受ける権利」や「労働者の権 利」、「労働者を守るための法律」の 内容や意義を調べまとめ、それぞれの 歴史的背景や政府の取り組みを 理解している。教育や労働に関する権利が保障されるようになった背景について、歴史的 経緯から考察し、説明している。
社会・公民	⑧自らの人権を守るために ↓	23	1	○参政権の内容と意義を具体的な事例を通じて理解し、国民が政治や裁判に積極的に参加し、監視することの重要性に気づく。 ○人権の救済を求める権利が保障されていることや、人権の救済のために多くの人が関わり、社会全体で人権を守るしくみづくりが進んでいることを理解する。	資料を活用して参政権と請求権の内 容を調べまとめ、人権を保障していく 上で、政治や裁判に関心をもっていく ことの重要性を理解している。「B型肝炎訴訟」や「児童虐待の相 談対応件数」などの具体的な事例を 基に、人権救済のあり方について考 察している。
社会・公民	⑨自由と権利を守るために ↓	24	1	○自由と権利を守るために、国民一人一人が個々の責任や義務を果たすことの重要性について考える。 ○権利の濫用の問題や公共の福祉の意味を考え、相互の尊重や合意を図る態度の大切さに気づき、自らの態度や行動に具現化する。	人権と公共の福祉がぶつかり合う具 体例を調べまとめ、公共の福祉の意 味を踏まえうえて国民の果たすべ き義務やさまざまな権利につ いて理 解している。人権と公共の福祉がぶつかり合う具 体例をもとに、公共の福祉が担う役 割について、様々な視点や立場から 考察し、表現している。
社会・公民	⑩発展する人権 ↓	25	1	○新しい人権の根拠や内容について、その背景となる社会の変化と関連付けて考えるとともに、さまざまな取り組みについて理解する。 ○新しい人権について、立場による考え方の違いや高まる個人の責任などに着目し、人権の問題を公正に判断する態度を養う。	新しい人権が生まれてきた根拠やそ の内容について、具体的な事例を通して理解している。新しい人権と従来の考え方を対比す ることを通して、社会の変化と人権の あり方について、多面的・多角的に考 察している。
社会・公民	◆「新しい人権」を考える～ディベート (1)	26	1	○「『忘れられる権利』を日本でも認めるべきか」を論題にディベートを行うことを通して、それぞれの立場や考え方の違いを理解したうえで、自分の考えをもつようになる。	ディベートのねらいや方法、流れを理 解し、インターネットや新聞などで収 集したさまざまな資料をもとに、自分 の主張や根拠について調べま まとめている。自分の主張の裏づけとなる根拠を、多面的・多角的に考察し、自分の言 葉で表現している。
社会・公民	⑪人権侵害のない世界に ↓	27	1	○世界に広がる人権問題と、それに対する取り組みについて理解し、国際的な理解と協力の必要性が高まっていることに気づく。 ○日本と世界の人権をめぐる課題の比較などを通して、今後果たすべき日本の役割や自分たちにできることを考える。	日本と世界の人権をめぐる課題につ いて、さまざまな資料やグラフなど をもとに調べまとめ、人権尊重のため に、国連や日本政府、NGOな などが取り組んでいることについて理解している。人権侵害のない世界を築くことを国 境を越える課題と捉え、自分自身が どう関わっていけるかについて考察し ている
社会・公民	①憲法に定められた平和主義 ↓	28	1	○平和主義という考え方が生まれた背景に気づき、平和主義という考え方のもつ意義を考える。 ○日本のこれまでの平和主義の歩みや、安全と防衛の問題について、自衛隊と文民統制の視点などから理解する。	日本国憲法第9条の「戦争の永久放 棄」の考え方について、「各国の憲法 における平和条項」や、自衛隊の文 民統制などと関連付けて調べまとめ、その意義を理解している。日本の安全と防衛の問題について、自衛隊が設立された歴史的経緯や 平和維持活動、文民統制の意義など、複数の視点から考察している。
社会・公民	②日本の安全保障と平和主義のこれから ↓	29	1	○日本の安全保障の現状と、国際社会の平和に対する日本の貢献のあり方について理解を深める。 ○日本国憲法における平和主義の立場をふまえながら、これからの社会の平和の構築について考える。	「日本にある米軍基地」や「自衛隊 の海外での主な活動」「日本の防衛 に関する主なできごと」などの資料を もとに、日米安全保障条約の内容や 日本の安全保障の現状について調べまとめ、国際平和に向けた日本の 取り組みについて理解している。自衛隊の海外派遣や世界から期待 される日本の国際貢献について、対 立する意見をふまえた上で日本は何 をしていくべきか、多面的・多角的に 考察し、表現 している。
社会・公民	□平和主義のこれまでとこれから (1)	30	1	○我が国の平和主義のこれまでの歩みと現状を理解したうえで、未来の平和のために具体的な活動に取り組んでいる人たちの姿から、国際社会における平和の構築について考える態度を養う。	日本の平和主義の理想と現実や、沖 縄県の人々が置かれている現状など について、資料や新聞、インターネッ トなどから調べまとめている。戦争体験の記憶を未来へつなげよう とするさまざまな取り組みの事例を通 して、「平和とは何か」「世界平和の ために何ができるか」について、多面 的・多角的に考察している。
社会・公民	◇学習のはじめに 地方議会ウォッチングに行こう ↓	31	1	○議会の傍聴を通して、身近な暮らしと政治との関わりについて考える。 ○民主主義という考え方のもつ意義や特徴を理解し、身近な暮らしの中で果たしている役割に気づく。	①知識・技能 身近な地域の課題を解決する役割を担う人々について調べることを通して、民主主義の考え方について理解している。②社会的な思考・判断・表現 議会の傍聴や視聴などを通して、身近な暮らしと民主主義を関連付けて考 察している。③主体的に学習に取り組む態度 議会の傍聴や視聴をきっかけに、自分の生活と関連付けて、民主主義の考 え方や民主政治の意味について問い、考察しようとしている。

社会・公民	①民主政治ってなんだろう ↓	32	↓	○民主主義の意義とともに、議会制民主主義（代議制）のしくみについて理解する。 ○多数決の原理と少数意見のあり方について理解し、民主主義と権力との関係について考える。	独裁政治との対比を通して、民主主義の意義を理解し、議会制民主主義（代議制）のしくみや多数決の原理について調べまとめている。多数決の限界をふまえた上で、少数意見の尊重と人権保障との結びつきについて考察している。
社会・公民	②国民の代表を選ぶ選挙 ↓	33	↓	○選挙の意義としくみについて理解し、選挙が果たす役割について考える。 ○日本の選挙制度の特徴について理解する。	民主主義における選挙の重要性や日本の選挙制度のしくみ、さらに選挙権を保障するためのさまざまな制度について理解している。小選挙区制と比例代表制の特徴について、それぞれの長所と短所を踏まえ、考察している。
社会・公民	③18歳選挙権と私たち ↓	34	↓	○18歳選挙権が実現した背景とその意義について理解し、民主的な選挙権の行使について考える。 ○投票率の低下や一票の価値の地域による格差など、選挙をめぐるさまざまな課題について考える。	投票率の低下や一票の価値の格差など、日本における選挙の課題について調べまとめ、選挙権の拡大やインターネット選挙運動の広がりについて理解している。日本における若い世代の投票率の低下や、一票の価値の格差などがもたらす問題について、多面的・多角的に考察、構想している。
社会・公民	④願いをかなえる政党政治 ↓	35	↓	○政党がもつ意義や、政党の働きについて理解する。 ○政党と国民との関わりや、政党による政治運営などの観点から、政党政治の役割について考える。	日本の主な政党が掲げる公約やマニフェストからそれぞれの主張を調べまとめ、日本の政党のしくみや働きについて理解している。政党政治を進める上で選挙が果たす役割の大きさをふまえ、政党と国民の関わりについて公正に判断し、考察、構想している。
社会・公民	⑤マスメディアと政治 ↓	36	↓	○世論と、それを形成するマスメディアの機能を理解し、民主政治との関わりを考える。 ○新聞記事などの具体例を通して、マスメディアが国民に果たす役割について理解する。	複数の新聞から同じ記事を抜き出し、共通点と相違点について調べまとめ、マスメディアが政治や世論形成に及ぼす影響について理解している。マスメディアの機能や役割をふまえた上で、さまざまな情報を適切に処理するために留意すべきことについて、自分なりに考察、構想している
社会・公民	◆メディアリテラシーを学ぼう～情報の入手と活用 (1)	37	↓	○メディアリテラシーの考え方がもつ意義について理解する。 ○さまざまな情報を活用する際の留意点や課題について、具体例をもとに考える。	具体的な事例を通してマスメディアが報じる情報の特性について調べ、そこで得られる情報を批判的に読み解くことの意義について理解している。一つのできごとに対する複数メディアの取り上げ方の比較を通して、さまざまな情報を活用する際の留意点や課題について、多面的・多角的に考察している。
社会・公民	①国会の決定は国民の意思 ↓	38	↓	○憲法で定められた国会の地位と、国会の種類やしくみについて理解する。 ○二院制がとられている意味と、「衆議院の優越」がもつ意義について考える。	国会の種類や国会運営のきまりなどを調べまとめ、国会が国権の最高機関であり、国の唯一の立法機関であることを理解している。日本が二院制や衆議院の優越を採用している理由について、その意義や背景の考え方を考察し、説明している。
社会・公民	②国会は唯一の立法機関 ↓	39	↓	○法律の制定を中心とした国会のさまざまな仕事や、国会での審議のしくみを理解する。 ○国会議員の具体的な活動や仕事を通して、議員が国会で果たす役割について理解を深める。	法律制定までの流れや国会議員の立法活動の特徴や意義について調べまとめ、国会の主な仕事や審議の流れなどを理解している。「法律の制定」を中心に国会議員の役割を捉え、立法活動の特徴や議員立法の意義について、多面的・多角的に考察している。
社会・公民	③行政をまとめる内閣 ↓	40	↓	○首相や国務大臣の仕事や各行政機関、公務員の仕事から、内閣が果たす役割を具体的に理解する。 ○我が国の議院内閣制のしくみとその意義について、アメリカの大統領制との比較を通して理解を深める。	内閣の主な仕事や各省庁とのつながり、公務員の種類などを調べまとめ、行政のしくみについて理解している。議院内閣制の意義や特徴について、アメリカの大統領制との比較を通して考察し、説明している。
社会・公民	④暮らしと関わる行政 ↓	41	↓	○自分たちの暮らしと関わる行政が、どのような課題を抱え、改革を進めてきたかを理解する。 ○これからの行政のあり方と、行政における効率と公正について、具体的に考える。	新聞記事やインターネットなどから、行政改革に関する内容を調べまとめ、行政権の肥大化から行政改革を経て現在に至るまでの変化と現状を理解している。行政改革の長所と短所について、多面的・多角的に考察、構想し、説明している。
社会・公民	⑤人権の尊重と裁判 ↓	42	↓	○裁判のはたらきと裁判所の種類について理解し、司法権の独立の意義に気づく。 ○三審制など人権を守るために確立したしくみを理解し、慎重な裁判を確保することの意義について考える。	裁判のはたらきと裁判所の種類について調べまとめ、「司法権の独立」と「三審制」の意義について理解している。憲法で保障されている裁判に関する主な権利についての学習を基に、法に基づいて争いごとを解決する上で大切な事柄について考察し、表現している。
社会・公民	⑥民事裁判と刑事裁判 ↓	43	↓	○民事裁判と刑事裁判のしくみや特徴を、互いの裁判との比較から具体的に理解する。 ○裁判官、検察官、弁護士といった裁判に関わる人々の役割について理解し、被疑者・被告人の権利とその課題を考える。	新聞記事やインターネットなどから、民事裁判、行政裁判、刑事裁判のそれぞれに関する情報を収集し、それぞれの裁判の種類とはたらき、特徴について理解している。刑事裁判における裁判官、検察官、弁護士の役割をふまえた上で、被疑者・被告人の権利とその課題についてさまざまな視点から考察している。
社会・公民	⑦私たちの司法参加 ↓	44	↓	○裁判員制度のしくみと、制度が導入された意義について理解し、長所や短所について考える。 ○司法制度改革の課題と、これからの司法制度のあり方について考える。	さまざまな資料をもとに司法制度の現状を調べ、裁判員制度を中心とする司法制度改革や今後期待される事柄について理解している。裁判員制度の目的や長所・短所などをふまえた上で、司法参加のあり方について、さまざまな視点から考察、構想している。
社会・公民	◆もしも裁判員裁判に参加したら～シミュレーション (1)	45	↓	○事例をもとに、自分が裁判員裁判に参加したとして判決を考える活動を通し、裁判の意義について理解する。 ○裁判に関わる人々の役割を理解し、その重要性に気づく。	インターネットなどを活用し、裁判員裁判への参加に関するさまざまな情報を調べまとめ、実際の裁判の流れや、裁判員裁判に関わる人々の役割を理解している。裁判の事例における「傷害罪」の有無や、「強盗致傷」の成立の有無などについて、自分が裁判に参加したつもりで多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	⑧互いに監視し合う三つの権力 ↓	46	↓	○三権分立のしくみに基づく司法権の独立の意義を理解し、違憲立法審査権の意義について考える。 ○三権の相互の抑制について考え、三権分立のしくみが権力の濫用を防ぎ、国民の自由を保障しようとしていることに気づく。	三権分立の仕組みに関する図を用いて、三権の関係をまとめ、三権分立のしくみと違憲立法審査権の意義について理解している。憲法の番人として最高裁判所が果たす役割や、三権が分立している理由について、多面的・多角的に考察し、説明している。
社会・公民	①地方自治ってなんだろう ↓	47	↓	○地域が抱える課題に気づき、住民参加による地方自治の大切さを理解する。 ○「民主主義の学校」ともよばれる地方自治のしくみについて、国政との比較などを通して理解し、地方分権の意義について考える。	自分が住んでいる地域の課題やその解決策について、地方自治体が発行する広報紙や新聞記事などから調べまとめ、地方自治の意義を理解している。これまで学習してきた国政との比較を通じて、地域社会の政治のあり方や地方分権の意義について考察し、説明している。
社会・公民	②暮らしを支える地域の行政サービス ↓	48	↓	○地方自治体の仕事とそのしくみについて、具体例を通して理解を深める。 ○各地でのさまざまな住民投票の実施や、特色ある条例の作成などから、住民がもつ権利とその意義について理解する。	地方自治体のしくみや仕事内容について調べまとめ、地方自治体において間接民主制が機能するために必要な事柄を理解している。地方自治体における直接民主制と間接民主制のしくみについて、住民に与えられた具体的な権利と関連付けて考察し、説明している。
社会・公民	③地域の暮らしを支えるために ↓	49	↓	○地方財政の現状を理解し、地方における財源の確保の重要性に気づく。 ○近年の地方財政が抱える課題を理解し、将来の地域社会のあり方とそこで果たす地方財政の役割について考える。	自分が住む地方自治体の財政の現状について、地方自治体が発表する統計資料などを基に調べまとめ、地方財政の現状や課題について理解している。地方財政の現状を通して、地域が抱えているさまざまな課題について、多面的・多角的に考察、構想している。
社会・公民	④変わりゆく地域社会 ↓	50	↓	○地域の自立に関わる取り組みと、その課題について理解し、行政との協働も含めた今後の新たな取り組みについて考える。 ○外国人の住民との共生など、世界に開かれた地域社会のあり方について考え、理解を深める。	地方自治体が行う開かれた地域づくりに向けた取り組みについて調べまとめ、地域社会をより良くするための住民参加の重要性について理解している。市町村合併における長所や短所などを踏まえた上で、地域社会で起こり得る対立の解決策を多面的・多角的に考察、構想している。

社会・公民	◆街づくりのアイデアを提言しよう～プレゼンテーション (1)	51	1	○身近な地域の現状や抱えている課題について調べ、その解決策を考える。 ○地域の政治に対して、自分たちにてできる活動を考える。	新聞記事やインターネットなどから、地域の政治についての市民の取り組みを調べまとめ、「市民オンブズマン」の役割など、さまざまな政治参加の取り組みとその意義について理解している。地域が抱える課題をもとに、これからの地域社会の発展に向け、自分にできることを考察、構想し、表現している。
社会・公民	◇学習のはじめに もしもすべての給食を一人で作ったら	52	1	○経済社会における「分業」のもつ意味について、具体例をもとに考える。 ○ものを交換することの意義や、その際に貨幣の果たす役割に気づき、身近な暮らしと経済活動とのつながりへの関心を高める。	①知識・技能 分業をすることが生産性の向上をもたらすこと、貨幣を通じて生産物を交換していることを理解し、経済活動は一人一人が関わり合って成立していることに気づく。②社会的な思考・判断・表現 生産物の交換に貨幣が使われることの意義や効率性について、物々交換との比較で考察し、説明している。③主体的に学習に取り組む態度 身近な生活の中で経済活動がどのような意味をもつのかについて、「分業と交換」という視点から、主体的に学習していく見通しをもっている。
社会・公民	①家計ってなんだろう	53	1	○家計の果たす役割を、財やサービスの供給と、消費や貯蓄との関わりから理解する。 ○支払いにはさまざまな手段があることをふまえながら、消費の内容を正しく選択することの意義について考える。	クレジットカードや電子マネーなど、支払いにはさまざまな手段があることや、貯蓄の意義、消費内容の選択のあり方などについて理解している。家計における消費の内訳の推移から読み取った変化の特徴を、社会の様子と関連づけながら考察し、説明している。
社会・公民	②消費者を守るもの、支えるもの	54	1	○経済活動における信用の大切さに気づき、消費者の安全や権利を守るために、法律や制度が定められていることを理解する。 ○消費者問題に取り組むさまざまな消費者行政が進められていることを理解し、消費者の自立における契約の意味を考える。	売り手より商品に関する情報が限られる消費者には、安全や権利を守るための法律や制度があることや、自立した消費者としての責任が求められることを理解している。契約がお互いの信用で成り立っていることを意味を踏まえながら、契約を結ぶ際に自立した消費者として何が必要かを考察し、表現している。
社会・公民	③生産と消費を結び	55	1	○流通のしくみを理解し、自分たちの生活と流通との関わりに気づく。 ○流通機構の変化と発展における長所と短所をとらえ、将来の自分たちの生活への影響について考える。	生産された商品が消費者の手元に届くまでの流通経路や、さまざまな流通業の役割について理解している。インターネットの普及による流通機構の変化と発展が、消費者や地域経済、環境に及ぼす影響に着目し、その長所と短所について多面的・多角的に考察して表現している
社会・公民	①生産活動になう主体	56	1	○企業という経済主体の果たす役割を、生産のしくみや生産要素を通して理解する。 ○資本主義経済のしくみとその特徴について理解する。	企業が生産要素を用いて生産を行う意味と、個人や企業が利潤を追求する資本主義経済のしくみや性質を理解している。利潤を追求する資本主義経済の性質を踏まえながら、資本主義経済が私たちの生活に与える恩恵や注意が必要な点について考察し、説明している。
社会・公民	②さまざまな企業	57	1	○私企業や公企業を中心とする日本のさまざまな企業の種類と、それぞれの特徴を理解する。 ○規模からみた企業の違いやそれぞれの特色を理解し、日本経済の現状や今後の課題について考える。	私企業と公企業の性質や役割の違いを理解し、大企業と中小企業のそれぞれの特色について、事業所数や従業員数の資料を基に、調べまとめている。規模から見た企業の特色に注目し、その違いから中小企業の課題を考察し、自分の言葉で表現している。
社会・公民	③株式会社ってなんだろう	58	1	○私企業における会社企業の中で、最も多く存在する株式会社のしくみと特徴について理解する。 ○株式会社に關する会計情報や、企業の社会的責任(CSR)についての情報を知ることの意味を考える。	株式会社のしくみと特徴について、株式会社と株主の関係を踏まえながら理解し、企業の社会的責任について、具体的事例を基に調べまとめている。株式会社の会計情報や企業の社会的責任に関する情報が、株主にとってどのような意味をもつのかを考察し、投資を行う株主が必要な姿勢について自分の言葉で表現している。
社会・公民	④働くということ	59	1	○働くことの目的や、働くことと契約の意義について理解する。 ○労働三法をはじめ、働く人たちの権利を守るために定められた法のあり方や現状を理解する。	働くことの目的や、労働条件の内容について資料から調べ、働く人たちの権利がどのような法律や制度によって守られているかを理解している。労働者が企業に比べて弱い立場であることをふまえながら、労働者が自らの権利を守るとともに責任を果たすために必要な姿勢について考察し、表現している。
社会・公民	⑤安心して働ける社会	60	1	○労働環境の変化に伴って、深刻化するさまざまな課題をとらえる。 ○非正規社員の人たちが外国人労働者、女性が抱える労働問題をふまえ、安心して働くことができる社会のあり方について考える。	女性や非正規労働者、外国人労働者が抱える労働問題を資料から調べまとめ、現在の労働環境の変化とその背景について理解している。日本の労働環境の変化によって深刻化する様々な労働問題に着目し、誰もがワーク・ライフ・バランスを実現できる社会のあり方を多面的・多角的に考察・構想している。
社会・公民	◆起業にチャレンジしてみよう～計画の立案 (1)	61	1	○地域のニーズをとらえた事業を、クラウドファンディングの手法などを用いた起業計画として立案し、発表することの意義に気づく。 ○起業することがもつ意義へのより深い理解と、プレゼンテーション能力を身につける。	社会の変化や個人のニーズの多様化に伴って、ベンチャービジネスが増加していることや、資料からクラウドファンディングのしくみや具体例を読み取り、理解を深めている。地域社会のニーズを踏まえた財・サービスを生産する事業を計画し、効果的なプレゼンテーションで表現している。
社会・公民	①ものの価格の決まり方	62	1	○市場における財やサービスの価格の決まり方について、身近な生活の中から具体的に考える。 ○需要と供給と価格の関係について考え、市場経済のしくみと特性を理解する。	需要と供給曲線のグラフから、需要量と供給量の意味や、均衡価格が決まるしくみを読み取り、市場メカニズムについて理解している。需要と供給の関係や、商品価格を均衡価格に導く市場経済のしくみについて考察し、効率性の観点から市場メカニズムを説明している。
社会・公民	②価格のもつ意味	63	1	○主な価格の種類をふまえながら、競争の役割を通して、市場が機能するために必要な条件を考える。 ○財やサービスの種類によっては、市場に適さないものがある理由を考える。	市場メカニズムが効率的に機能するために必要な法や制度の意義や、公共料金に公平な価格管理が求められる理由について理解している。市場メカニズムが適正にはたらくためにはどのような条件が必要か、効率と公正の観点に注目して考察し、説明している。
社会・公民	①金融のしくみと中央銀行	64	1	○金融機関の種類や役割を理解するとともに、銀行のしくみについての理解を深める。 ○銀行のさまざまな仕事と目的をふまえながら、日本銀行と一般の銀行との違いを理解する。	金融のしくみや、一般の金融機関の種類や役割、日本銀行の三つの役割について理解している。一般の銀行と日本銀行の違いについて説明している。
社会・公民	②間接金融と直接金融	65	1	○間接金融と直接金融のそれぞれのしくみや特徴と、違いをとらえる。 ○株式市場のはたらきや役割を理解し、投資が本来もつ意味と市場への影響について考える。	間接金融と直接金融の特徴と違い、投資と投機の目的の違いを理解している。効率と公正の観点から、株式市場のはたらきやその課題点を考察し、説明している。
社会・公民	③財政が果たす三つの役割	66	1	○第三の経済主体として、政府の経済活動を表す財政のしくみを理解し、経済の三主体についての理解を深める。 ○資源配分、所得の再分配、経済の安定化という財政の三つの役割を、具体的にとらえる。	様々な資料から具体例を読み取り、資源配分、所得の再分配、経済の安定化という財政の三つの役割について理解している。政府が社会資本や公共サービスを担う理由について、市場経済の特徴を踏まえながら考察し、説明している。
社会・公民	④税金を納めること	67	1	○税金の種類とそれぞれの特徴について、身近な暮らしの中から具体的に理解する。 ○租税には効率性と公平性の問題があることに気づき、納税の意義について考える。	様々な資料から、国税と地方税、直接税と間接税、累進課税制度の内容を読み取り、それぞれの特徴やしくみを理解している。効率と公正の観点から、所得税と消費税のそれぞれの特徴と課題点を考察し、説明している。
社会・公民	⑤税金の行方と国の借金	68	1	○政府の収入(財源)と支出の内容や、特徴について理解する。 ○財政赤字など政府が抱える課題とその取り組みについて理解し、今後の財政のあり方を考える。	様々な資料から、国の歳入と歳出の状況を読み取り、国と地方の財政における関連や、国債残高が増加している背景などについて理解している。財政赤字の背景や、国債残高が今後も増え続けていく場合に生じる問題点について考察し、その解決に向けた提案を構想し、表現している。
社会・公民	⑥経済政策が目ざすもの	69	2	○経済の成長と安定のしくみや、自分たちの生活との関連を理解する。 ○経済の安定のために、政府や日本銀行が行う経済政策について理解し、どのように行われるべきかを考える。	景気循環や、インフレーションとデフレーションが私たちの生活に与える影響や、政府と中央銀行の経済政策について理解している。政府が行う財政政策と、中央銀行が行う金融政策について、その違いを考察し、それぞれの効果を説明している。

社会・公民	◇学習のはじめに 私たちの15年を振り返ってみよう 1	70	1	○生まれてからこれまでの私たちの15年間の暮らしは、どのように営まれてきたのかを理解する。 ○これからの人生においては、どのような支えが必要になっていくかを考える。	①知識・技能「出産・育児」「保育・教育」「医療」の視点から、中学校3年生にいたるまでに平均的に使われている費用を理解し、まとめている。②社会的な思考・判断・表現 これまでの15年間で自分が受けてきた公的な支援を踏まえながら、これからの人生においてどのような支援を受けるかを考察し、自分の言葉で表現している。③主体的に学習に取り組む態度 私たちが安心して豊かに暮らしていくために必要なことはどのようなことが、「希索性」（資源の分配のあり方）の観点をもって、主体的に学習していく見通しをもっている。
社会・公民	①身のまわりの社会保障制度 1	71	1	○社会保障制度の意義と、暮らしの中で果たす役割について具体的に理解する。 ○高齢化の観点から、現在の日本の社会保障制度が抱える課題を考える。	失業率の推移や人々が生活の中で抱えている不安に関する資料を読み取り、社会保障制度の意義と、それが果たすべき役割を理解している。高齢化が進んでいる日本の現状をふまえながら、日本の社会保障制度の課題について考察し、説明している。
社会・公民	②互いに助け合う社会 1	72	1	○日本の社会保障制度の目的と、そのしくみや特徴を理解する。 ○社会保障制度の中でも特に社会保険と、生活保護の制度がもつ役割について理解を深める。	社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生という日本の社会保障の四つの項目と、それぞれの内容について理解している。社会保障制度が所得の再分配機能を果たしていることについて、社会保険と生活保護の制度から具体的に考察し、説明している。
社会・公民	③社会保障の維持のために 1	73	1	○進む少子高齢化の中で、社会保障制度が抱える課題を具体的に理解する。 ○介護保険や年金保険などの給付と負担の関係について理解し、これからの社会保障制度を支えていくために必要なことを考える。	日本の総人口と年齢層の推移などの資料から日本の社会保障制度の課題を具体的にまとめ、介護保険や年金保険などの給付と負担の関係について理解している。少子高齢化、人口減少が進む中で、これからの社会保障制度がどうあるべきか、効率と公正、財源の確保と配分という視点から、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
社会・公民	④暮らしやすいまちづくりへ 1	74	2	○社会資本について具体的に理解し、高齢者や障がいのある人への設備の充実のために、どのような考え方が大切なのかを理解する。 ○身近な地域社会にはどのような課題があり、どのような取り組みが必要かを考える。	誰もが暮らしやすいまちづくりをするために、社会資本の整備が大切であることや、「バリアフリー」の充実、「ユニバーサルデザイン」の普及がより一層必要になっていることを理解している。自分の住む地域社会が、誰にとっても暮らしやすくなるために必要な社会資本の工夫について、効率と公正、権利と責任の観点から、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
社会・公民	◆誰もが「生きづらさ」を感じない社会について考えよう～レポートの作成 (1)	75	1	○これまでに学習した内容の中から、テーマを決めてレポートを作成させる活動を通して、身近な地域社会の課題に対する理解を深め、レポート作成能力をさらに育成する。	出典を正しく示したグラフやデータで、比較や推移を適切に表現しながら、自分が設定した社会保障に関するテーマでレポートをまとめ、その内容を理解している。自分が設定した社会保障に関するテーマについて、調査した内容を多面的・多角的に考察し、レポートにまとめて効果的に表現している。
社会・公民	①循環型社会に向けて 1	76	1	○公害問題への理解を通して、環境保全への取り組みが進められてきたこれまでの歴史や、現状をとらえる。 ○排出ごみの問題解決や、企業・行政・市民による協働が循環型社会の実現のために求められていることを理解し、環境問題へ積極的に取り組むことの重要性に気づく。	四大公害病を中心とした公害問題と、その後定められた環境を守るための法律や循環型社会への取り組みについて具体例を調べ、その内容を理解している。これからの循環型社会を形成するために、企業・政府・市民はどのような経済活動をする必要があるのか、持続可能性の視点から考察、構想し、自分の言葉で表現している。
社会・公民	②グローバル化する経済 1	77	1	○経済におけるグローバル化の進展によって、国際社会では何が起こり、その結果日本にはどのような影響があったかを理解する。 ○グローバル化する国際社会の中で、日本経済が抱える課題とその解決について考えを深める。	日本企業の海外生産比率や非正規雇用者の割合などを調べ、グローバル化する経済の中で日本経済が抱える課題について理解している。経済がグローバル化することの長所と短所をふまえながら、日本経済が抱える課題とその解決方法について、効率と公正の視点から、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
社会・公民	③新たな日本経済のあり方 1	78	1	○日本の「ものづくり」の特徴や課題、地域による格差の解消に向けた取り組みなど、日本経済の現状をとらえる。 ○さまざまな地域の新しい試みの成果や課題をとらえ、これからの日本経済のあり方を考える。	地域間格差など日本経済が抱える課題の解決に向けて、利益そのものよりも自然環境との調和や地域住民とのつながりなど、新たな「豊かさ」を旨とした経済活動が広がっていることを理解している。具体的な取り組みを参考にしながら、自分が考える「豊かさ」を基盤としたこれからの日本経済のあり方について、考察、構想し、表現している。
社会・公民	□貿易がもたらすもの (1)	79	1	○貿易のもつ利点、過去の日本の貿易のあり方や現状、為替レートのしくみなどを理解しながら、貿易の意義と、国際社会における日本経済の課題について考えを深める。	環太平洋パートナーシップ協定や日EU経済連携協定など、現在の世界と日本の貿易をめぐる動きについて調べ、貿易や為替のしくみ、自由貿易と保護貿易の特徴について理解している。為替レートの変動が貿易に及ぼす影響について考察し、自分の言葉で説明している。
社会・公民	①国際社会を構成する国 1	80	1	○主権国家を基本単位として構成される国際社会の特色や、どの主権国家にもある国旗と国歌の意義と役割を理解する。 ○国際社会の平和と秩序を維持していくために、国際法が果たしている役割と課題について考えを深める。	さまざまな資料から、主権国家がもつ権利や国旗と国歌の役割、国際法の特徴を調べまとめ、国家の主権が相互に尊重されることの意義を理解している。主権国家がもつ国旗と国歌の意義や国際社会での平和と秩序を守るために国際法が果たす役割について、国際社会の現状や課題と関連づけながら、多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	②日本の領土をめぐる 1	81	1	○国家の主権が及ぶ範囲について理解する。 ○日本の領土をめぐる課題をとらえるとともに、国際社会の平和と秩序を維持していくために大切なことは何かを考える。	国家の主権が及ぶ範囲や排他的経済水域、日本の領土問題について調べまとめ、国家が成立する要素について理解している。日本の領土をめぐるのはどのような問題があり、解決に向けてどのようなことが重要か、多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	□日本の外交の今とこれから (1)	82	1	○日本の外交の基本的な考えとともに、中国、北朝鮮、ロシアとの外交関係について、それぞれの現状と課題、今後の交渉のあり方を考えながら、日本の外交の今とこれからについて深く考える。	日本政府の外交政策の基本的な考え方や、中国との関係、北朝鮮との日本人拉致問題及び国交正常化、ロシアとの北方領土問題における外交政策のあり方について理解している。日本の外交政策のあり方や、中国、北朝鮮、ロシアとの間における外交交渉のあり方を、多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	③国際社会のまとめ役 1	83	1	○国際連合が成立した経緯としくみ、そのはたらきを理解し、国際機構の果たす役割の大切さに気づく。 ○平和維持活動(PKO)やさまざまな専門機関など、世界の平和や人々の暮らしの向上に努める国連の活動を理解する。	国際連合誕生の経緯や目的、しくみ、はたらき等について調べまとめ、国際社会における国際連合の役割を理解している。国際連合が国際社会で果たす役割や安全保障理事会などの専門的な機関がどのような活動を行っているのかを理解し、国際貢献のあり方について多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	④地域統合の光と影 1	84	1	○EU、ASEAN、APECなどを例に、国際社会における地域統合についての理解を深め、日本との関わりについて考える。 ○日本が結んでいる経済連携協定について調べ、その効果や日本への影響を考える。	EU、ASEAN、APEC、TPPなどの目的やしくみ、概要等について調べまとめ、地域統合(地域主義)や国際社会における結びつきの意義を理解している。日本も含めた国際社会の地域統合(地域主義)や自由貿易協定の長所・短所について、多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	⑤世界の一員として 1	85	1	○アジアを中心とした日本の国際貢献について、技術協力や経済援助の視点からとらえ、今後も他国から期待される活動のあり方を考える。 ○NGOによる国際支援活動の具体例を通して、民間でもできる国際支援の方法や特徴について考える。	様々な資料を基に、日本が世界の一員として国際貢献を進めてきた経緯や事業内容について調べまとめ、国際貢献の意義や国際支援のあり方について理解している。ODA、NGOをはじめとする日本の国際貢献と、私たち一人一人ができることについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
社会・公民	⑥核なき世界の実現へ 1	86	1	○核をとりまく国際社会の現状と、核軍縮の動きや課題をとらえる。 ○平和主義を貫くという視点から、我が国が国際社会で果たせる役割や、今後も期待される活動を考える。	核の廃絶や軍縮の実現のために、唯一の被爆国である日本が果たす役割が大きいことを理解している。核保有国の核弾頭保有数や世界情勢などを基に、核廃絶が実現しない理由について、多面的・多角的に考察、構想し、説明している。
社会・公民	①終わらない地域紛争 1	87	1	○世界の地域紛争の現状を理解し、紛争が長引く原因や解決を妨げる課題について考える。 ○難民問題など紛争が及ぼす未解決の課題について、その原因を理解し、解決策について考える。	世界各地で発生する難民問題の背景の一つに地域紛争があることを調べまとめ、各国や国連機関が様々な取り組みを進めていることを理解している。世界各地で見られる地域紛争の長期化、複雑化の原因と、その解決を妨げる課題について、多面的・多角的に考察し、表現している。
社会・公民	②さまざまな価値観の中で 1	88	1	○世界のさまざまな文化や宗教が、人々に与える影響について理解を深める。 ○多様性を受け入れることが、社会にとってどのような意味をもつのかについて考える。	世界の人々が言語、宗教、習慣、歴史などの文化的要因からさまざまな民族に分けられることを調べまとめ、互いの文化や価値観に敬意を払い、多様性を認めながら共存することが大切であることを理解している。世界のさまざまな文化や宗教が人々の暮らしに与える影響や、互いの価値観や多様性を認め合うことの意義を考察し、表現している。

社会・公民	③安全をおびやかすもの 1	89	1	○「人間の安全保障」という考え方の広がりに着目し、こうした考え方が注目されるようになった背景に気づく。 ○グローバル化が進む国際社会という広い視野から、南北問題や南南問題などの国家間の格差の現状と課題について考える。	南北問題や南南問題などの国家・地 域間の格差が生まれる背景について 調べまとめ、人間の安全保障の理念 の下に「持続可能な開発目標（SDG s）」の達成に取り組むことの意義を 理解している。人間の安全保障の理念に基づいた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成のために、国家間の様々な格差 の解消に向けた取り組みのあり方について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
社会・公民	④なくてはならない食糧と水 1	90	1	○「人間の安全保障」という視点から、食糧と水の不足を中心に、世界が抱える深刻な問題の原因や背景について考える。 ○水資源をめぐって起こっている世界の動きに気づき、自分たちの生活への影響やこれからの世界のあり方を考える。	「人間の安全保障」の実現を目ざす 一方で、食糧不足、水不足が生じる 背景、理由を調べまとめ、先進国が 果たす役割について理解している。人間の生命や地球環境を守るため に人類が果たすべき役割のうち、特 に先進国が果たす役割と私たち一人 一人ができることについて、多面的・ 多角的に考察、構想し、表現してい る。
社会・公民	⑤子どもと女性をめぐって 1	91	1	○国際社会において、弱い立場に置かれやすい子どもや女性が、深刻な問題を多く抱えている現状とその背景に気づく。 ○弱い立場にある人々の人権が尊重される社会を築いていくことが、これからの社会にとって重要であることを理解する。	国際社会において、子どもや女性が 抱えている問題について調べまとめ、これからの社会にとって不平等や差 別の解消が重要であることを理解している。国際社会において、子どもや女性な ど弱い立場にある人々の権利が尊重 される社会の構築のために、私たち ができることを多面的・多角的に考 察、構想し表現している。
社会・公民	⑥これからの資源・エネルギー 1	92	1	○限りある資源と新しいエネルギーに関して、それぞれの現状と今後の課題を理解する。 ○原子力発電所の事故をふまえ、資源やエネルギーを安全で持続可能な手段によって利用していく方法について、自分たちの暮らしと関わらせて考える。	資源・エネルギーの現状や課題ついで調べまとめ、限りあるエネルギーの 問題を解決するために様々な技術開 発が進められていることや、再生可 能エネルギーの特徴や利点を理解している。様々な化石燃料や原子力発電の問 題点と再生可能エネルギーの特徴や 利点について、多面的・多角的に考 察し、表現している。
社会・公民	⑦「生命の星」を守るために 1	93	1	○地球温暖化をはじめとする、さまざまな地球環境問題の原因と現状に気づき、これまでの国際的な動きを整理してまとめることができる。 ○地球温暖化とその影響について理解するとともに、国によって地球環境問題への取り組みには立場や考え方の違いがあり、対話と調整を続けることが大切であることを理解する。	狩猟、採集、農耕社会を経て、化石燃 料を多く使用した工業化社会の問題 点について調べまとめ、砂漠化、大気 汚染、水質汚濁等の地球環境問題 の解決に向けた国際的な動きについで理解している。地球環境問題が起こる原因と、問題 の解決に向けた国際社会がができる取り組みや私たち一人一人ができることについて、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。
社会・公民	⑧持続可能性を妨げる、さまざまな課題（1）	94	1	○現在の国際社会には、各地で厳しい課題に直面している多くの人がいることをとらえる。 ○持続可能な社会の構築に向けて、自分の考えをさらに深めるきっかけとして、さまざまな課題への理解を深める。	持続可能な発展を実現するうえで、国際社会には様々な課題があること について調べまとめ、それらがSDGs（持続可能な開発目標）のどこに該 当するか理解している。現在の国際社会において特に解決しなくてはならない社会的課題を複数 挙げ、「最優先に取り組むべき」、「優先して取り組むべき」、「次に取り組 むべき」の3段階にランキングし、その 結果を理由とともに説明している。
社会・公民	①持続可能な未来と私たち 1	95	1	○学んできたSDGsを視点に、さまざまな課題と自分なりに向き合いながら、課題解決のための答えを探していくことの大切さに気づく。 ○これまでの学習の集大成として、持続可能な未来に向けた作品・私の提案「自分を変える、社会を変える」を作成する準備を行う。	SDGs（持続可能な開発目標）の達 成に向け、先進国も発展途上国も取り組むべきことについて調べまとめ、経済的発展だけでなく、人間の発展 に向けた開発を目ざすことが重要で あることを理解している。「私の提案」の作成について、「つな がる」「つづける」「つりあう」「つつみ こむ」の視点から、持続可能な未来 のために自分と社会をどのように変 えていくか、多面的・多角的に考察、構想し、表現してい る。
社会・公民	②私の提案「自分を変える、社会を変える」をつくろう 2	96	2	○資料収集や表現方法の選択、テーマを追究する手順を具体的に考える。 ○追究する個人テーマと、持続可能性を妨げる課題との関わりについて理解し、SDGsをつなぎながら、手順にそって作成する。	持続可能性を妨げる主な課題についで、グローバルとローカルの両面から調べまとめ、SDGsとのつながりや 関係を理解している。持続可能な未来に向け、これまでの 学びから自分自身の生き方や考え方 の広がりや深まりについて多面的・多 角的に考察、構想し、私の提案の根 拠を「5W1H」の視点から説明している。
社会・公民	③持続可能な未来への対話 1	97	1	○完成した「自分を変える、社会を変える」を相互に発表し合い、インタビュー形式の他者との対話を通してさらに改善を考える。 ○卒業後も、「ともに生きる社会」の実現に向けて、「自分を変える、社会を変える」を生かして行動し続けていくことの大切さに気づく。	持続可能な未来に向けた対話を通して、他者との共通点や相違点についで調べまとめ、考え方の違いを乗り越 え、他者と協働する機会が大切であることを理解している。他者との「未来への対話」を通し、自 分が作成した提案をさらに改善し、持続可能な未来について多面的・多 角的に考察、構想し、表現している。

